

2019年度

学習のてびき

別科助産学専攻



島根県立大学
出雲キャンパス

カレンダー

2019年4月～2020年3月

2019							2019								
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土		
4	1	2	3	4	5	6	10	6	7	8	9	10	11	12	
	7	8	9	10	11	12		13	13	14	15	16	17	18	19
	14	15	16	17	18	19		20	20	21	22	23	24	25	26
	21	22	23	24	25	26		27	27	28	29	30	31		
			1	2	3	4						1	2		
5	5	6	7	8	9	10	11	11	3	4	5	6	7	8	9
	12	13	14	15	16	17	18		10	11	12	13	14	15	16
	19	20	21	22	23	24	25		17	18	19	20	21	22	23
	26	27	28	29	30	31			24	25	26	27	28	29	30
						1									
6	2	3	4	5	6	7	8	12	1	2	3	4	5	6	7
	9	10	11	12	13	14	15		8	9	10	11	12	13	14
	16	17	18	19	20	21	22		15	16	17	18	19	20	21
	23	24	25	26	27	28	29		22	23	24	25	26	27	28
30							29	30	31						
	1	2	3	4	5	6	2020				1	2	3	4	
7	8	9	10	11	12	13		1	5	6	7	8	9	10	11
14	15	16	17	18	19	20			12	13	14	15	16	17	18
21	22	23	24	25	26	27			19	20	21	22	23	24	25
28	29	30	31				26		27	28	29	30	31		
			1	2	3								1		
8	4	5	6	7	8	9	10	2	2	3	4	5	6	7	8
	11	12	13	14	15	16	17		9	10	11	12	13	14	15
	18	19	20	21	22	23	24		16	17	18	19	20	21	22
	25	26	27	28	29	30	31		23	24	25	26	27	28	29
9	1	2	3	4	5	6	7	3	1	2	3	4	5	6	7
	8	9	10	11	12	13	14		8	9	10	11	12	13	14
	15	16	17	18	19	20	21		15	16	17	18	19	20	21
	22	23	24	25	26	27	28		22	23	24	25	26	27	28
29	30						29	30	31						

【春学期授業開始日】

4月 5日

【秋学期授業開始日】

10月 1日

夏 季 休 業 日

8月13日 ~ 9月30日 (実習・授業計画による)

冬 季 休 業 日

12月23日 ~ 1月 5日

春 季 休 業 日

3月18日 ~ 4月 3日

2019年度 学年暦・授業日一覧(別科助産学専攻)

授業日 補講・定期試験 大学行事 土日祝日・休業日

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
1 水		1 土	開学記念日	1 月		1 木	再試験期間	1 火	春学期成績開示	1 金		1 水		1 日		1 土		1 水		1 土		1 日	
2 木	入学時オリエンテーション	2 日		2 火		2 金	再試験期間	2 火	春学期成績締切	2 土		2 木		2 月		2 日		2 木		2 日		2 月	
3 金	入学時オリエンテーション	3 月		3 水		3 土		3 水		3 日		3 木		3 火		3 日		3 金		3 月		3 火	
4 土	入学式 保護者ガイダンス	4 火		4 木		4 日		4 木		4 月		4 金		4 水		4 月		4 土		4 火		4 水	
5 日	春学期授業開始	5 水		5 水		5 月		5 月		5 火		5 土		5 木		5 火		5 日	冬期休業終了	5 水	修了判定会議	5 木	
6 月		6 木		6 木		6 火		6 火	保護者懇談会	6 水		6 日		6 火		6 水		6 月		6 木		6 金	大学院入試
7 日		7 火		7 金	つわぶき祭準備	7 水		7 水		7 土		7 月		7 木		7 土		7 火		7 金		7 土	
8 月		8 水		8 土	つわぶき祭	8 木		8 木		8 日		8 火		8 金		8 日		8 水		8 土		8 日	
9 火		9 木		9 日	つわぶき祭	9 金		9 金		9 月		9 水		9 土		9 土		9 木		9 日		9 月	
10 水	大学生活スタートセミナー	10 金		10 月		10 土	夏期休業開始	10 木		10 日		10 金		10 日		10 日		10 金		10 月		10 火	
11 木		11 土		11 火		11 日		11 木		11 水		11 金		11 月		11 水		11 土		11 火		11 水	
12 金		12 日		12 水		12 月		12 木		12 木		12 土		12 火		12 木		12 日		12 水		12 木	修了式
13 土		13 月		13 木		13 土		13 火		13 金		13 日		13 水		13 金		13 月		13 木		13 金	
14 日		14 火		14 金		14 日		14 水		14 土		14 月		14 木		14 土		14 火		14 金		14 土	
15 月		15 水	健康教育講演Ⅱ	15 土		15 日		15 木		15 日		15 火		15 金		15 日		15 水		15 土		15 日	
16 火		16 木		16 日		16 金		16 金	学術末試験(技術)	16 月		16 水		16 土		16 土		16 木	補講日	16 日		16 月	
17 水	コカゾント・面接 対談講座、健康診断(午前)	17 金		17 月		17 土		17 土		17 火		17 木		17 日		17 日		17 金		17 月		17 火	
18 木		18 土		18 火		18 日		18 日	学術末試験(技術)	18 水		18 金		18 月		18 水		18 土		18 火		18 水	
19 金		19 日		19 水		19 月		19 月	学術末試験(技術)	19 木		19 土		19 火		19 木		19 日		19 水		19 木	
20 土		20 月		20 木		20 土		20 火		20 金		20 日		20 水		20 金		20 月	学期末試験	20 木		20 金	
21 日		21 火		21 金	密着教授特別講義	21 日		21 水		21 土		21 月		21 木		21 土	冬期休業開始	21 火	学期末試験	21 金		21 土	
22 月		22 水	学生党選訓練	22 土		22 月		22 木		22 日		22 火		22 金		22 日		22 水		22 土		22 日	
23 火		23 木		23 日		23 金		23 土		23 月		23 水		23 日		23 土		23 木	再試験期間	23 日		23 月	
24 水	小論文対策講座	24 金		24 月		24 土		24 日		24 火		24 水		24 日		24 日		24 木	再試験期間	24 月		24 火	
25 木		25 土		25 火		25 日		25 水		25 木		25 金		25 月		25 水		25 土		25 火		25 水	
26 金		26 日		26 水	大学火災避難訓練	26 金		26 月		26 土		26 日		26 火		26 土		26 日		26 水		26 木	
27 土		27 月		27 木		27 土		27 火		27 日		27 水		27 日		27 日		27 金		27 月	秋学期成績締切	27 木	
28 日		28 火		28 金		28 日		28 水		28 土		28 木		28 月		28 土		28 火		28 日		28 金	
29 月		29 水		29 土		29 日		29 木		29 月		29 火		29 日		29 日		29 水		29 木		29 土	
30 火		30 木		30 日		30 火		30 金		30 月	夏季休業終了	30 水		30 土		30 土		30 木		30 日		30 月	
31 水		31 金		31 水		31 日		31 土		31 月		31 火		31 日		31 日		31 金		31 火		31 水	

※各実習の日程はそれぞれの実習要項で示す。

シ ラ バ ス

1. 開講科目一覧

領域	開講科目名	必修選択別		単位数及び時間数		学期別（時間数）		担当教員	
		必修	選択	単位数	総時間数	春学期	秋学期	職名	氏名
助産基礎領域	基礎助産学	○		1	15	15		准教授	狩野 鈴子
	生殖生命倫理学	○		1	15	15		非常勤講師 非常勤講師	折出 亜希 勝部 愛子
	母子の心理・社会学	○		1	15	15		非常勤講師 准教授	岡本 庸子 橋本 由里
	母子栄養	○		1	15	15		教授	名和田清子
	女性の健康	○		1	15	15		准教授	狩野 鈴子
助産実践領域	助産診断技術学Ⅰ（妊婦）	○		1	30	30		准教授	藤田小矢香
	助産診断技術学Ⅱ（産婦）	○		1	30	30		准教授	濱村美和子
	助産診断技術学Ⅲ（母子）	○		1	30	30		准教授 准教授	狩野 鈴子 植田 恵
	総合助産診断技術学	○		3	90	90		教授 准教授 准教授 准教授 准教授 助教 助教	秦 幸吉 狩野 鈴子 濱村美和子 藤田小矢香 井上 千晶 植田 恵 中谷 陽子
	妊娠期におけるME診断	○		1	15	15		教授 准教授	秦 幸吉 濱村美和子
	新生児・乳幼児の成長と発達	○		1	15	15		非常勤講師 非常勤講師 准教授 助教	加藤 文英 成相 昭吉 狩野 鈴子 植田 恵
	周産期学Ⅰ（妊娠期の異常）	○		1	15	15		非常勤講師	岩成 治
	周産期学Ⅱ（分娩・産褥期の異常）	○		1	15	15		非常勤講師	岩成 治
	周産期救急	○		1	15	15		非常勤講師 非常勤講師	岩成 治 加藤 文英
	島根の母子保健	○		2	30	30		准教授	狩野 鈴子
	助産業務管理学	○		2	30	30		准教授	濱村美和子
	助産学実習	○		11	495		495	准教授 准教授 准教授 助教	狩野 鈴子 濱村美和子 藤田小矢香 植田 恵
	地域母子保健実習	○		1	45		45	准教授 助教	狩野 鈴子 植田 恵
	総合助産学領域	助産学研究	○		1	30	30		准教授 准教授 助教
情報処理演習			○	1	15	15		教授	加納 尚之
母子の健康と代替療法			○	1	15		15	准教授 助教	濱村美和子 植田 恵
計		19科目	2科目	35	990	435	555	(専任教員) (非常勤講師)	10人 6人
所要単位数合計		必修 33単位 選択 1単位							

2. 各授業科目の概要

科目	授業等の内容
基礎助産学 1 単位 15時間	助産の基本概念として助産に対する定義や意義、助産の対象を理解し、助産の原理原則としての生命尊重、救命、産痛緩和や母性愛の育成の重要性について学ぶ。また助産師に関する法律及び助産業務を取り巻く法律を理解し、助産師の責務と役割を学習する。助産業務を行うに当たって必要な助産学を支える理論や倫理的側面について、助産師教育の変遷や現状、方向性を学び助産師業務の発展を展望する。
生殖生命倫理学 1 単位 15時間	妊娠成立の機序を含めた女性の生殖に関わる生命科学を学ぶ。出生前診断、体外受精などの生命科学や生殖補助医療技術の動向、現状について理解し、不妊治療に関して法律もふまえて多角的視点から生命倫理を考える。周産期と遺伝相談の現場で起こりうるカウンセリング場面を想定し、当事者の自己決定権を尊重し支援するという基本的態度を養うとともに生殖医療に関わる助産師の役割や対象への援助について学ぶ。
母子の心理・社会学 1 単位 15時間	母子をめぐる心理・社会的諸問題について理解を深め、専門的援助を行う際の視点を養う。主に、女性のライフスタイルとメンタルヘルス（うつ等）、母子関係（アタッチメント理論、愛着障害等）、母性、ジェンダーについて学ぶ。 乳幼児を持つ親に対する、個別あるいはグループ支援プログラム等の支援の実際について学ぶ。
母子栄養 1 単位 15時間	妊娠から出産後の母親の栄養および乳幼児期に必要な栄養の特徴と摂り方について学ぶ。また、基本的発育のための栄養だけでなく、母子を取り巻く食環境の変化と問題点を理解し、子どもの心身の健康な発育・発達のための食行動、食習慣、食文化等を統合した食育への支援のあり方について学ぶ。具体的な乳幼児期・学童期の食習慣、食生活上の問題点として、偏食、孤食、欠食、肥満等への対応の方法について学ぶ。
女性の健康 1 単位 15時間	女性のライフサイクルにおける性と生殖に関する健康課題と援助方法について学ぶ。思春期、更年期及び老年期における心身の特徴や社会的問題を理解する。思春期に特有な健康課題として月経困難症、摂食障害、性感染症について、更年期に特有な健康課題として更年期障害、老年期の骨粗鬆症等を理解し、その予防や援助方法について学ぶ。女性のライフステージ全般における社会的問題や課題を通して、健康な生活のための支援方法について学ぶ。
助産診断技術学Ⅰ(妊婦) 1 単位 30時間	妊娠に伴う生理的変化、胎児と胎児付属物について学ぶ。妊娠経過に応じた母体の変化、胎児の成長と発達、胎児付属物の機能と構造、妊婦の心理・社会的変化、妊婦を取り巻く家族について理解し、支援方法について学ぶ。妊娠期の診断を正確に行い、妊娠経過が順調に経過するための支援について基礎的な知識と理論を修得する。
助産診断技術学Ⅱ(産婦) 1 単位 30時間	分娩各期の診断に必要な専門的知識をふまえて、助産診断の枠組みに沿って分娩期のアセスメントの視点、診断基準について学ぶ。また分析・統合から対象に応じた支援を展開するための基本的な援助の方法を学ぶ。分娩介助技法については、原理原則を学び産婦の意思・主体性を尊重したケアについて考える。
助産診断技術学Ⅲ(母子) 1 単位 30時間	産褥の生理的変化、新生児の体外生活への生理的適応過程についての的確に診断するための基礎的知識や技術の理解を深める。 さらに母親と子ども、及び家族が新しい役割に適応し、心身ともに健康な生活が送れるようにセルフケア能力を高める支援方法について学ぶ。
総合助産診断技術学 3 単位 90時間	助産師にとって必要な妊婦、産婦、褥婦、新生児のケアのための助産過程及び診断技法を修得する。妊娠・分娩・産褥における母子への影響を理解し、経過の予測や異常の有無を的確に診断するための能力を事例を通して修得する。妊婦健診に必要な技術、分娩介助技術、産褥期に必要な技術、新生児の診察技術、健康教育として集団指導及び個別指導の方法について演習を通して学ぶ。新生児蘇生法「専門コース」(Aコース)の認定を取得するための演習を行う。

科目	授業等の内容
<p>妊娠期におけるME診断</p> <p>1 単位 15時間</p>	<p>妊娠期における超音波診断のポイント、1)正常妊娠か否か?2)胎児の発育は正常か?3)胎児に外表奇形はないか?胎児の心臓や消化器は正常か?4)胎盤の位置や羊水量は正常か?5)子宮頸管計測等を中心に解説する。胎児心拍数モニタリングの評価法、さらに胎児心拍数モニタリングによる胎児機能不全の診断法について学ぶ。</p>
<p>新生児・乳幼児の成長と発達</p> <p>1 単位 15時間</p>	<p>助産診断の基礎になる胎児・新生児・乳幼児の成長・発達などの基礎的かつ臨床的な知識を修得する。 RDS、MAS、感染症、低血糖、未熟児網膜症等を取りあげ、その病態生理、症状、診断と治療について学ぶ。また、小児の未熟性、未分化性を背景とした精神運動機能、生理機能の発達等の小児の特徴と疾病との関連性について学ぶ。さらに母親、家族への育児支援を実践する上で必要な乳幼児の発育相談、健康教育の方法を学ぶ。</p>
<p>周産期学Ⅰ(妊娠期の異常)</p> <p>1 単位 15時間</p>	<p>正常な妊娠を理解した上で、妊娠期に起こりうる疾病について、概念及び定義、病態生理、症状、診断、治療方法から予防まで、医学的な対応と処置について学ぶ。主な妊娠期の異常として感染症(風疹、性感染症、細菌性髄膜炎、HTLV-1等)、合併妊娠(心疾患合併妊娠、呼吸器疾患合併妊娠、糖尿病合併妊娠等)、異常妊娠(子宮外妊娠、流産、多胎妊娠、妊娠高血圧症候群等)について一部ディスカッション形式を用いて学ぶ。</p>
<p>周産期学Ⅱ(分娩・産褥期の異常)</p> <p>1 単位 15時間</p>	<p>正常からの逸脱を識別するために必要となる分娩期、産褥期に起こりうる疾病について、概念及び定義、病態生理、症状、診断と治療方法から予防まで医学的な対応について学ぶ。 主な分娩期の異常として、陣痛異常、CPD、回旋異常、骨盤位分娩、常位胎盤早期剥離、胎児胎盤機能不全、妊娠高血圧症候群等、産褥期の異常として弛緩出血、産褥熱、産褥期精神疾患等について学ぶ。一部はテーマにそってディスカッションをする。</p>
<p>周産期救急</p> <p>1 単位 15時間</p>	<p>的確で確実な実践力を求められる周産期の救急法について、基本的な知識を解説し、技術を修得する。 産科領域では常位胎盤早期剥離、子癇、産科ショック、DICなどの疾患について緊急時の対応と処置法について学ぶ。また、新生児蘇生法については、蘇生装置の使用法、胸骨圧迫や気管挿管、薬物投与等についての助産師として持つべき知識と基本的技術を学ぶ。また、発展的な内容として会陰裂傷縫合術の基礎を学ぶことで、介補技術の習熟を図る。</p>
<p>島根の母子保健</p> <p>2 単位 30時間</p>	<p>離島があり東西に長い地勢の島根県の周産期医療の現状について理解し、へき地・離島における周産期医療のあり方について学習を深める。また、地域母子保健活動における助産師の役割及び関連職種との連携のあり方について学ぶ。 具体的には、母子保健情報をもとに、地域の現状について学び、地域に根ざした母子保健活動を展開するための母子保健医療福祉政策の基本について理解する。また、へき地・離島における助産師の取り組みや開業助産師による地域母子保健活動の実際について理解を深める。</p>
<p>助産業務管理学</p> <p>2 単位 30時間</p>	<p>助産管理の概念、助産業務の目的と範囲及び対象の特徴並びに管理の展開について学ぶ。具体的には病産院、助産所における業務管理の他、関連法規、医療事故のマネジメント、災害時における助産師の支援活動と役割を学ぶ。また、助産外来、オープンシステム、院内助産所の設置運営など周産期医療システムの概要について学ぶ。リプロダクティブヘルスの考え方を基本に、出産・育児、助産師による国際的活動を学ぶ。</p>
<p>助産学実習</p> <p>11 単位 495時間</p>	<p>講義演習で学んだ助産診断・フィジカルイグザミネーションなどの知識と技法を臨地実習の場で統合し、マタニティサイクル各期にある女性とその家族に対し助産過程を展開する。とくに妊娠期から産褥期までを継続して受け持ち、健康教育の展開と母子や家族の絆の形成に必要な援助の方法を修得する。また、女性のライフステージ各期の健康課題に関する援助について学ぶ。また組織管理について理解を深め、行政等関連機関との連携方法の実際を学ぶ。</p>
<p>地域母子保健実習</p> <p>1 単位 45時間</p>	<p>健診事業、育児相談事業、家庭訪問、健康教育等の実習を通して、地域における母子保健に関する行政の取り組みと母子保健活動の現状及び今日的課題について理解を深め、育児支援のあり方を学ぶ。個人及び社会に対して必要な地域の社会資源の活用、様々な職種とのネットワークのあり方の実際について学び、助産師の役割を理解する。</p>

科目	授業等の内容
助産学研究 1 単位 30時間	<p>助産領域の研究について科学的アプローチの必要性と手法の基礎を理解する。また研究計画書の作成を通して助産学研究を実践する基礎的能力及び専門職として自ら学ぶ力を養う。</p> <p>具体的には、研究の意義と目的、デザインとその方法、倫理的配慮について理解を深める。研究過程については、テーマ設定と文献検索、研究計画書の立て方、論文の構成、クリティークなど研究を進める上での基本的事項を学ぶ。</p>
情報処理演習 1 単位 15時間	<p>母子保健に関する事例（健康に関するデータ、出産に関するアンケート調査結果）等の統計的処理方法として、量的・質的研究データの検討方法、単純集計から t 検定・カイ二乗検定の検討方法及び情報倫理について学び、研究的態度を身につける。また、情報を提示するプレゼンテーションソフトの活用方法を修得する。さらに、インターネット検索エンジンを活用した各種情報の検索・収集について学ぶ。</p>
母子の健康と代替療法 1 単位 15時間	<p>母子の健康に注目し、より健康に過ごすための援助方法と意義を学ぶ。臨床における代替療法の目的、エビデンス、安全性について理解する。使用する際の注意点を理解した上で、ケアの方法を学習する。国内外の代替療法について調べ、妊産褥婦や家族の満足度を高めるための実践的な支援と方法について演習を通して理解し、修得する。</p>

科目分類	助産基礎領域	対象学年	1
授業科目	基礎助産学	カリキュラムポリシー	C
担当教員	准教授 狩野 鈴子	選択/必修	必修
科目コード	I6161000	授業形態	講義
		単位数	1

目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・助産の概念としての助産の定義や意義について理解し、助産師としての役割を認識することができる ・助産学を構成する理論として、産理論や産痛緩和理論などについて理解し、助産での活用場面を具体的に説明することができる。 ・助産師の職業倫理について考える機会をもつことができる。 ・助産師教育の変遷を理解し、助産師業務の方向性と自己研鑽のあり方について理解できる。
授業計画	<p>【1】 助産の概念 (助産の概念の変遷、助産の定義、助産の対象) (講義)</p> <p>【2】 助産師の定義と職務 (助産師の定義、業務内容、基本的助産業務に必要な能力) (講義)</p> <p>【3】 助産師が行うケア (対象理解、ケア論の考え方) (講義)</p> <p>【4】 助産師と倫理 (講義)</p> <p>【5】 助産の歴史 (助産の変遷) (講義)</p> <p>【6】 【7】 助産と文化 (産育習俗) (講義・演習)</p> <p>【8】 まとめ (講義)</p>
テキスト	<p>「助産学講座1 基礎助産学1 助産学概論」 我那山キヨ子編 医学書院</p> <p>「助産師基礎教育テキスト」 助産概論 山本あい子編 日本看護協会出版会 医学書院</p> <p>「助産学概論」 青木康子編、青海社</p> <p>必要に応じて追加資料を配付します。</p>
参考文献	<p>* 「看護法令要覧 平成30年版」 勝又浜子編集 日本看護協会出版会</p> <p>「臨床助産師必修 生命と文化をふまえた支援」 第2版 我那山キヨ子 医学書院</p> <p>「出産の文化人類学 儀礼と産婆」 松岡悦子 海鳴社</p> <p>「日本人の子産み・子育て いま・むかし」 鎌田久子ほか 勁草書房</p>
評価方法	定期試験 (80%) 演習への参加状況 (20%) により総合評価する
その他	

科目分類	助産基礎領域	対象学年	1
授業科目	生殖生命倫理学	カリキュラムポリシー	C
担当教員	非常勤講師 折出 亜希	勝部 愛子	選択/必修
科目コード	I6060001	授業形態	講義
		単位数	1

目的・目標	<p>【1】～【6】 (折出 亜希)</p> <p>1. 生殖生理を理解する</p> <p>2. 生殖倫理の現状を理解し、生殖倫理について考える</p> <p>3. 基本的な遺伝の知識を習得する</p> <p>【7】・【8】 (勝部 愛子)</p> <p>1. 生殖治療を受けるカップルの看護及び不育症の看護について理解できる</p> <p>①検査・治療を受ける方への看護</p> <p>②治療後の妊婦への看護</p> <p>③不育症看護</p> <p>④男性不妊についての理解</p> <p>2. 自己決定支援について理解できる</p> <p>3. 不妊治療に関しての新しい情報、社会的背景について理解できる</p>
授業計画	<p>【1】 医療と生命倫理 (折出)</p> <p>【2】 出生前診断 (折出)</p> <p>【3】 遺伝子、染色体、遺伝カウンセリング (折出)</p> <p>【4】 生殖生理 (折出)</p> <p>【5】 不妊症の系統的診断 (折出)</p> <p>【6】 一般不妊治療、高度生殖医療 (折出)</p> <p>講義方法：【1】～【6】 パワーポイントを用いた講義</p> <p>【7】 ①検査・治療を受ける方への看護 (男性不妊も含む) (勝部)</p> <p>②治療後の妊婦への看護：事例検討グループワーク (勝部)</p> <p>【8】 ①不育症看護：事例検討グループワーク (勝部)</p> <p>講義方法：【7】・【8】 講義・パワーポイント使用</p> <p>事例検討の際はグループワーク</p>
テキスト	<p>「助産師基礎教育テキスト」第2巻 女性の健康のケア」 日本看護協会出版</p> <p>「助産師基礎教育テキスト」第7巻 ハイリスク妊娠・分娩・新生児へのケア」 日本看護協会出版</p> <p>「助産学講座2 基礎助産学2 母子の基礎科学」 我那山キヨ子、武谷雄二編 医学書院</p> <p>「生殖医療の必知知識」 一般社団法人日本生殖医学会 編</p> <p>「新女性医学体系15 不妊、不育」 武谷雄二 中山出版</p> <p>「トンプソン&トンプソン 遺伝医学」 監修 福島義光 メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>「遺伝医学やさしい系統講義」 監修 福島義光 メディカル・サイエンス・インターナショナル</p> <p>「病気がみえる 婦人科・乳癌外科 VOL.9 第2版」 メディクメディア</p> <p>「独習 入門カウンセリングワークブック」 日本・精神技術研究所</p> <p>「看護に活かす 積極的傾聴法」 メディカ出版</p> <p>「不妊・不育外来 実践ハンドブック」 中外医学社</p>
参考文献	<p>【1】～【6】 (75点分)</p> <p>出席状況、授業の参加状況 (50%)、レポート (50%) の総合評価</p> <p>【7】・【8】 (25点分)</p> <p>授業参加状況 (80%以上)、出席状況、グループワークでの発表内容</p>
評価方法	

その他	<p><自己学習に関する指針></p> <p>【1】～【6】 講義で使用するパワーポイントはプリントして配布するので、講義後の自己学習に役立ててください。 質問は講義終了時あるいは、メール (sanfujim@med.shimane-u.ac.jp) で受け付けます。 メールの際は件名を「東立大学 名前〇〇 質問」としてください。</p>
	<p>【7】・【8】 不妊治療に關しての基本的な内容、看護ケアについて理解し、治療後の妊婦への関りが実習でも持てるようにならしてもらいたい。</p>

科目分類	助産基礎領域		対象学年
	母子の心理・社会学	カリキュラムポリシー	
授業科目	岡本祐子	橋本由里	春学期
担当教員	非常勤講師	〇准教授	選択/必修
科目コード	I6161005	授業形態 講義	単位数 1
目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児を持つ母親の不安・悩み・心配事を知り、それらへの対応の仕方を学ぶ。 ・支援者としての自分の特性を知り、支援する際の態度を学ぶ。 ・女性のライフスタイルとメンタルヘルス、母子をめぐる諸問題について理解を深める。 		
授業計画	<p>【橋本】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 女性のライフスタイルとメンタルヘルス (1) 思春期・青年期における諸問題 2 女性のライフスタイルとメンタルヘルス (2) 成人期・中年期・老年期における諸問題 3 母子関係 (アタッチメント理論、愛着障害等) 4 ジェンダー、母性 ※適宜、授業に関するDVDの視聴を取り入れます。 <p>【岡本】</p> <ol style="list-style-type: none"> 5 現代の母親の育児に関する悩み 6 虐待予防に効果的な「母親グループ」その①ストレス軽減を図る 7 虐待予防に効果的な「母親グループ」その②第1子を育てる母親への支援 8 他職種との連携、支援者のあり方 (グループワーク) ※適宜、授業に関するDVDの視聴を取り入れます。 <p>『基礎助産学 [4] 母子の心理・社会学』 2013年 村瀬聡美・我部山キヨ子 (編著) 医学書院 パワーポイントの資料を配布する</p>		
テキスト	『母と子のこころの相談室 “関係” を育てる心理臨床』改訂新版 2009年 田中千穂子著 山王出版 『母子臨床と世代間伝達』2000年 渡辺久子著 金剛出版 『母子と家族への援助 妊娠と出産の精神医学』2000年 吉田敬子著 金剛出版 『普及版 完璧な親なんじゃない! カナダ生まれの子育てテキスト』2002年 ジャニス・ウッド・キャタノ著 三沢直子監修 幾島幸子翻訳 ひとなる書房 『親教育プログラムのすすめ方 フェシリターターの仕事』2002年 ジャニス・ウッド・キャタノ著 三沢直子監修 杉田真・門脇陽子・幾島幸子翻訳 ひとなる書房		
評価方法	授業への参加態度、レポート等により総合的に判断する。		
その他	<自己学習に関する指針>		

科目分類	助産基礎領域	カリキュラムポリシー	対象学年	1
授業科目	母子栄養	A	学期	春学期
担当教員	教授 名和田 清子		選択/必修	必修
科目コード	16060003	授業形態 講義	単位数	1
目的・目標	<p>(1) 母子を取り巻く食（栄養）の現状と課題について理解する。 (2) 妊娠期・授乳期の栄養の特徴を説明できる。 (3) 成長期の栄養の特徴を説明できる。 (4) 授乳・離乳の支援ガイドの考え方を理解する。 (5) 食育における助産師としての役割、関連職種との連携について理解する。</p>			
授業計画	<p>(1) 日本人の食生活の現状と課題 (2) 母子を取り巻く食（栄養）の現状と課題について (3) 日本人の食事摂取基準の考え方 (4) 成人女性の必要栄養量と妊娠期・授乳期の付加量 (5) 成長に必要な栄養（新生児期、乳幼児期、学童期、思春期の必要栄養量） (6) 妊娠・授乳期の身体の変化と栄養の特徴 (7) 授乳・離乳の支援ガイドについて (8) 母子に関する栄養行政 食に関する子育て支援のあり方について考える。</p>			
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。			
参考文献	「日本人の食事摂取基準(2015年版)」 森田 明、佐々木 第一出版 「新版 小児の発達栄養行動―摂食から排泄まで/生理・心理・臨床」 二木武ら 医歯薬出版社 「応用栄養学、栄養科学シリーズNEXT」 木戸康博ら 講談社 「子どもの心と体を育てる食事学 (第2版)」 藤沢良知ら 第一出版 「子育て支援の新たな職能を学ぶ」 ミネルヴァ書房			
評価方法	授業態度、レポートなどを総合的に判断する。			
その他	社会環境が複雑となり、社会的価値観が多様化する現在、個々の努力で適切な食を実践することは難しくなってきました。そのような状況下、専門職として食育にどのように関わっていくべきか、それぞれの役割、関連職種の連携について考えながら受講し、クラスの中で討議し、広い視野で考えられる力を身につけてください。			

科目分類	助産基礎領域	カリキュラムポリシー	対象学年	1
授業科目	女性の健康	C	学期	春学期
担当教員	准教授 好野 鈴子		選択/必修	必修
科目コード	16161004	授業形態 講義	単位数	1
目的・目標	<p>・思春期女性からの変化・心理的特徴について説明できる。 ・思春期女性の健康課題と支援のあり方について理解できる。 ・更年期・老年期女性の心身の変化・社会的特徴について説明できる。 ・更年期・老年期女性の健康課題と支援のあり方について理解できる。 ・現代女性に特有な健康課題について理解できる。</p>			
授業計画	<p>【1】 思春期女性のケア 思春期女性の成長と発達、心理的・社会的な特徴 (講義) 【2】 思春期女性の健康問題への支援 栄養、摂食障害、月経異常など (講義) 【3】 中年女性のケア 更年期・老年期の特徴 (講義) 【4】 更年期の健康問題への支援 更年期症状、更年期障害、骨粗鬆症など (講義) 【5】 ライフサイクルとセクシュアリティ (講義) 【6】 ～【8】 セクシャルヘルス 家族計画の基礎知識 (講義・演習) 各種受胎調節法</p>			
テキスト	「助産学講座 2 母子の基礎科学」 我部山キヨ子 医学書院 「助産学講座 3 母子の健康科学」 我部山キヨ子 医学書院 「助産学講座 4 母子の心理・社会学」 我部山キヨ子 医学書院 「助産学講座 5 助産診断・技術学Ⅰ」 我部山キヨ子 医学書院 「助産師基礎教育テキスト 2 女性の健康とケア」 吉沢豊子編 日本看護協会出版会			
参考文献	「中年女性健康教育マニュアル」 小山高夫・監：(社) 日本家族計画協会 「病気が見える vol.9 婦人科・乳腺外科」 医療情報科学研究所編集 (株) メディックメディア 「臨床助産師必携第2版」 我部山キヨ子 医学書院 その他講義の中で紹介します。			
評価方法	定期試験 (100%) により評価する			
その他	<自己学習に関する指針> ・日々、新聞などに目を通して、社会的・今日的課題を把握するようにしましょう。			

科目分類	助産専攻領域	対象学年	1
授業科目	助産診断学Ⅰ(妊婦)	カリキュラムポリシー	A
担当教員	榎野 藤田小矢香	選択/必修	必修
科目コード	I6060100	授業形態	講義
単位数		単位数	1
目的・目標	<p><目的> 妊娠中の診断を正確に行うために、妊娠経過や経過に伴う支援について基礎的な知識と理論を修得する。</p> <p><到達目標> ・妊娠による母体の変化、心理的変化や家族役割について説明することができる。 ・胎児の成長と発達について説明することができる。 ・妊娠初期、中期、後期の助産診断の特徴と診断類型について説明することができる。 ・ハイリスク妊婦に対する支援について説明できる。 ・妊娠期間における検査、薬剤について理解できる。</p>		
授業計画	<p>【1】妊娠期の助産診断 妊娠期の診断の特徴、妊娠期のマタニティ診断類型(経過診断と健康生活診断) 共同講義</p> <p>【2】妊娠初期の助産診断 経過診断：妊娠の確定・妊娠の時期・分娩予定日、妊娠経過、母体の状態、胎児の状態、胎児付属物の状態 健康生活診断：基本的な生活行動、精神・心理生活行動・社会生活行動・出産育児行動 講義・プレゼンテーション</p> <p>【3～5】妊娠初期の助産診断、マタニティ診断とケア計画 事例1：産婦人科初回受診 事例2：産婦人科再診 事例3：妊娠13週 妊娠初期まとめ 事例4：妊娠18週 妊娠中期まとめ</p> <p>【6】妊娠中期の助産診断 経過診断：妊娠の時期・分娩予定日、妊娠経過、母体の状態、胎児の状態、胎児付属物の状態 健康生活診断：基本的な生活行動、精神・心理生活行動・社会生活行動・出産育児行動 講義・プレゼンテーション</p> <p>【7～10】妊娠中期の助産診断、マタニティ診断とケア計画 事例4：妊娠22週 妊娠中期まとめ 事例5：妊娠34週 妊娠後期まとめ</p> <p>【11】妊娠後期の助産診断 経過診断：妊娠経過、母体の状態、胎児の状態、胎児付属物の状態 健康生活診断：母体の状態、胎児発育健康状態、胎児付属物の状態、分娩様式・分娩の時期 講義・プレゼンテーション</p> <p>【12～15】妊娠後期の助産診断、マタニティ診断とケア計画 事例5：妊娠34週 妊娠後期まとめ 事例6：妊娠38週 妊娠後期まとめ</p>		
テキスト	<p>助産師基礎テキスト4 妊娠期の診断とケア 森恵美編 日本看護協会出版会 助産学講座4 基礎助産学 4 母子の心理・社会学 我部山キヨ子 医学書院 助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ(1) 妊娠期 我部山キヨ子 医学書院 「アラインメント産科婦人科学2(第3版)」坂元一他監修 メジカルビュー社</p>		
参考文献	<p>* 「実践マタニティ診断」 日本助産診断・実践研究会編著 医学書院 「週別別産婦健診マニュアル」 藤井知行 医学書院 助産学講座2 基礎助産学 2 母子の基礎科学 我部山キヨ子 医学書院 助産学講座3 基礎助産学 3 母子の健康科学 我部山キヨ子 医学書院 助産師のためのフェイザル・イグザミネーション 我部山キヨ子 医学書院 「今日の助産」 北川眞理子 南江堂 「写真でわかる助産技術」 平澤美穂子 村上睦子 インターメディア 助産師外来で役立つ超音波検査ガイドブック 竹村秀雄 メディカ出版 「妊娠中の観察と対応」 井上裕美 長谷川赤子 日経研 「心理的問題をもつ妊娠経過のケア」 中野仁雄 医学書院 「産婦の生理学」 寺尾俊彦 メディカ出版 「基礎から学ぶ 産婦人科超音波診断」 鳥嶋一憲 東京医科学社</p>		

	<p>「最新産科学(正常編)(異常編)」 真柄正直 文光堂 「周産期ケアマニュアル」 立岡弓子 医学芸術社 「標準産科婦人科学」 丸尾猛他編 医学書院 「産科婦人科学」 加藤宏一監修 へるす出版 「臨床エビデンス産科学」 佐藤和雄編 メジカルビュー社 「妊娠と授乳」 伊藤真也 村島温子 南山堂 「母乳育児支援スタンダード」 NPO法人日本ラクテーション・コンソシアム協会編 医学書院 「母乳育児支援ガイド」 監訳橋本武夫 医学書院 「UNICEF/WHO 赤ちゃんとお母さんにやさしい母乳育児支援・セミナー・コース」 国際連合児童基金、世界保健機関 医学書院 「理論にもとづくベリネのケア」 ベルナデット・ド・ガスケ著 医学書院</p>
評価方法	<p>・小テスト3回 小テスト(1)(2)(3)各20点 計60点 ・ポートフォリオ 40点 評価基準(詳細は別途伝える) 時系列に並べられている 自己の学習目標を明確に記し、目標を達成するために集められたものである 予習・復習による学びの成果が示されている コピーやコピー&ペーストに終始せず、自己の考え・印象・感じたことなど記載されている</p>
その他	<p><授業の進め方> ・担当教員と学生によって共同で講義を組み立てていきます。早めに相談し、準備を始めてください。 ・疑問を投げかけ、解決の糸口を見つける工夫や自己の課題を明らかにしていきましょう。 ・講義毎に自己の学習目標を明らかにし、積極的に授業に取り組みしましょう。 ・本授業は自ら進んで学習を深めていくことができるとともに講義を進めていきます。自ら調べる、考える、自分の意見を述べる、確認するなど積極的に講義に参加してください。 ・質問がある場合は講義終了後、研究室等で受け付けます。</p>

科目分類	助産実践領域	対象学年	1
授業科目	助産診断技術学Ⅱ (産婦)	カリキュラムポリシー	A
担当教員	椎野 潤村 美和子	選択/必修	必修
科目コード	I6060101	授業形態	講義
		単位数	1

目的・目標	<p><目的> 分娩期のアセスメントの視点、診断基準について学び、対象に応じた支援を展開するための基本的な援助について学ぶ。</p> <p><目標> ・分娩の3要素を解剖生理学の観点から理解し、説明できる。 ・分娩経過時期ごとの機序と母体・胎児に及ぼす影響を理解し、説明できる。 ・分娩経過診断の類型、分娩生活診断の類型に沿ったアセスメントの視点が説明できる。 ・分娩期の支援とケアの原則、方法が説明できる。 ・分娩介助法の原理と基本が説明できる。</p>
授業計画	<p>【1】 分娩の診断に必要な知識 1) 分娩の概念 2) 分娩の3要素 3) 経過と所要時間 4) 分娩の機序 5) 母体と胎児への影響</p> <p>【2】 分娩の診断に必要な知識 1) 分娩開始 (前徴・分娩の開始) 2) 分娩時期 (週数・分娩時期・分娩経過曲線)</p> <p>【3】 【4】 分娩期の経過診断 1) 分娩開始 (前徴・分娩の開始) 2) 分娩時期 (週数・分娩時期・分娩経過曲線)</p> <p>3) 母体の健康状態・生理的変化 (母体への影響)</p> <p>【5】 【6】 分娩期の経過診断 4) 分娩経過状態 (娩出力・産道) 5) 分娩経過状態 (回旋)</p> <p>【7】 【8】 分娩期の経過診断 6) 分娩経過状態 (進人・下降度) 7) 胎児の状態 (発育・分娩の胎児への影響・健康状態)</p> <p>8) 胎児付随物の状態</p> <p>9) 分娩予測診断・分娩様式と分娩の可否</p> <p>【9】 【10】 分娩期の生活診断 10) 基本的な生活行動 11) 精神・心理生活行動</p> <p>12) 社会的な生活行動 ・13) 出産育児行動</p> <p>【11】 ～ 【13】 正常分娩・正常分娩時の指導とケアの原理 入院の判断・破水時のケア・産道緩和・分娩体位・分娩経過・陣痛強化など</p> <p>【14】 【15】 分娩介助法・技術の原理 1) 内診法・検査法 2) 分娩介助法原理 (仰臥位) / 手順と根拠</p> <p>・ミニテスト (2回) は都度試験範囲を指定する。 ・グループワークは課題 (別途提示) についてまとめ発表する。</p>
テキスト	<p>「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ」 分娩期・産褥期 我部山キヨ子他編 医学書院 「助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア」 町浦美智子編 日本看護協会出版会 「今日の助産」 北川真理子 南江堂 「最新産科学 (正常編)」 荒木 勤 文光堂 「最新産科学 (異常編)」 荒木 勤 文光堂 「産褥産科婦人科学」 望月眞人他編 医学書院 「チャート産婦人科」 金岡敦著 医学評論社 「アリンシブル産科婦人科学1・2 改訂版 (第2版)」 坂元正一他監修 メジカルビュー社</p>
評価方法	<p>・定期試験 60%、ミニテスト 20%、グループワーク・演習への参加・態度・成果物 20% <自己学習に関する方針> ・分娩見学の経験が少ない場合は、図書館にある教育用ビデオ・図書の閲覧をしましょう。 ・診断の基本である診断指標の理論背景、データベースの項目理解は、助産学実習前に修得できるよう多くの文献を読んでください。 ・質問はメールを活用し研究室にもお越し下さい。</p>
その他	

科目分類	助産実践領域	対象学年	1
授業科目	助産診断技術学Ⅲ (母子)	カリキュラムポリシー	A
担当教員	○椎野 鈴子 助産 植田 恵	選択/必修	必修
科目コード	I6060102	授業形態	講義
		単位数	1

目的・目標	<p>・産褥期・新生児期の助産診断類型について理解できる。 ・育児および新しい家族の形成過程を支援するための知識・技術を理解し説明できる。 ・新生児出生時の観察の視点を理解し説明ができる。 ・産褥期・新生児期および乳幼児期の助産ケアについて理解し説明できる。</p>
授業計画	<p>【1】 【2】 産褥期の生理的変化 (狩野) 全身・局所・乳房・心理・社会的変化について 【3】 【4】 産褥期の助産診断とケア (狩野) 経過診断とケアについて 【5】 産褥期の助産診断とケア (狩野) 健康生活診断とケアについて 【6】 【7】 母乳育児支援 (植田) 【8】 【9】 新生児期・乳幼児期の助産診断とケア (狩野) 経過診断・健康生活診断とケアについて 【10】 新生児期の助産診断に必要な基本情報 (狩野) 妊婦経過・胎児情報について 【11】 ～ 【14】 新生児期の助産診断とケア (狩野) 出生時の観察の視点 【15】 健康課題を持つ児と親へのケア (講義・演習/ミニテスト) (講義) (講義) (講義) (講義)</p>
テキスト	<p>「助産学講座第5巻7 助産診断・技術学Ⅱ」 分娩期・産褥期 医学書院 「助産学講座第5巻8 助産診断・技術学Ⅱ」 新生児期・乳幼児期 医学書院 「助産師基礎教育テキスト 第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」 横尾京子 日本看護協会出版会 「助産師基礎教育テキスト 第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア」 遠藤俊子 日本看護協会出版会</p>
参考文献	<p>「最新産科学正常編、異常編」 真柄正直 文光堂 「乳房管理学」 根津八紘 * 「母乳育児支援スタンダード」 NPO 法人日本ラクテーション・コンサルタント協会編集 医学書院 「病気がみえる vol10 産科 第4版」 MEDIC MEDIA 「新生児学入門」 仁志田博司 医学書院 「今日の助産」 北川真理子 南江堂</p>
評価方法	<p>定期試験 (80%) ミニテスト (10%) 演習 (10%) により総合評価する 質問があればメールの活用、研究室に来るなどしてください。</p>
その他	

科目分類	助産実践領域	対象学年	1
授業科目	助産助産師技術学	学期	春学期
担当教員	カリキュラムポリシー 森幸吉 ○狩野鈴子 濱村美和子 藤田小矢香 井上千晶 植田恵 中谷陽子	選択/必修	必修
科目コード	I6060103	授業形態	演習
		単位数	3

目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中のフェイジカルイグザミネーション (目的) 妊婦健診に必要な、フェイジカルイグザミネーション技術を習得する。 (目標) 対象に配慮しながら、触診法、腹部計測等を行うことができる。 健康教育 (目的) 健康教育を身に着ける上で必要な理論・原理・方法・手段を修得する。 (目標) 集団指導、個別指導の意義、目的、方法、評価方法を理解し、健康教育を行うための指導案を作成し、実施することができる。 分娩介助法 ・分娩介助法の意義、目的、方法を理解し、演習事例で分娩介助法が実施できる。 助産診断と助産過程の展開 ・分娩経過診断、分娩生活診断の類型に沿って思考過程を踏んだアセスメントができる。 ・対象の支援・ケアの原則を理解し適切な立案ができる。 新生児期の助産診断とケア (狩野) <ul style="list-style-type: none"> ・出生直後のフェイジカルイグザミネーション技術を習得する。 産褥期・新生児期、乳幼児期に関する技術 ・産褥期・新生児期、乳幼児期ケアにおける基本的な技術が実施できる。
授業計画	<p>(藤田担当)</p> <p>A. フェイジカルイグザミネーション</p> <p>【1】 妊娠中のフェイジカルイグザミネーション (藤田) 妊婦健診の実際と指導、説明について</p> <p>【2】 【3】 妊娠中フェイジカルイグザミネーション技術テスト (藤田・植田) 診察技術テスト (レオポルド触診法、腹囲測定、子宮底測定、超音波ドブラー)</p> <p>【4】 妊娠中のフェイジカルイグザミネーション (藤田) 妊婦健診での配慮について 事例：妊娠37週</p> <p>(狩野担当)</p> <p>B. 健康教育</p> <p>【1】 【2】 健康教育の基礎知識 (狩野) 健康教育の定義、目的と目標、対象と場、健康教育のプロセス、教育方法 等</p> <p>【3】 【4】 健康教育指導案作成 (狩野 濱村 植田) 分娩経過と過ごし方・育児指導・家族計画指導等</p> <p>【5】 【6】 健康教育の実際(1) (狩野 濱村 植田) 作成した指導案の実施・検討</p> <p>【7】 健康教育の実際(2) (狩野 濱村 植田) 作成した指導案の評価のフィードバック、修正</p> <p>【8】 【9】 マタニティサイクルにおける実践 (狩野 濱村 植田)</p> <p>(濱村担当)</p> <p>C. 分娩介助法</p> <p>【1】 分娩介助のための基礎看護技術 (濱村・植田) 導尿・刺毛・浣腸のシミュレーション演習 別途ガイダンスを配布する</p> <p>【2】 分娩介助のための基礎看護技術 (植田) ガウンテック、清潔操作、ガーゼカウント等 別途ガイダンスを案内する</p> <p>【3】 【4】 分娩介助法 (仰臥位) の実際① (濱村) 物品・環境管理、産婦と介助者の準備、分娩介助に付随する技術、肛門保護法</p> <p>【5】 ～ 【8】 分娩介助法 (仰臥位) の実際② (濱村) 講義・演習</p>

<p>会陰保護法、児頭と軀幹の娩出法、胎盤娩出法、臍帯処置と呼吸助成</p> <p>【9】 ～ 【11】 分娩介助法 (仰臥位) の実際③ (濱村) 分娩終了後のケア、胎盤計測、内診法の実際</p> <p>【12】 分娩介助法 (仰臥位) の実際④ (濱村) 第1期終盤から分娩終了までのシミュレーションによる展開と評価</p> <p>【13】 【14】 分娩介助法 技術テスト (狩野・濱村・藤田・植田)</p>	<p>講義・演習</p> <p>演習</p>
<p>D. 助産診断と助産過程の展開</p> <p>【1】 【2】 助産診断の原理と概要 (濱村) 【3】 【4】 助産過程の展開 (ペーパー・ペーシエントによる事例展開) (濱村) 【5】 ～ 【13】 助産過程の展開 (藤田・濱村・狩野) ペーパー・ペーシエントによる事例展開 妊娠前から産褥期、胎児期から新生児期まで事例を通して助産過程を展開する</p>	<p>講義 講義 演習</p>
<p>(狩野担当)</p> <p>E. 産褥期・新生児期の助産診断とケア (狩野)</p> <p>【1】 出生直後のフェイジカルイグザミネーション 【2】 産褥期・新生児期・乳幼児期に関する技術 清拭、調乳等</p>	<p>演習</p>
<p>(藤田・狩野・藤田・井上・植田・中谷担当)</p> <p>F. 新生児蘇生法</p> <p>【1】 【2】 【3】 新生児蘇生法「専門コース」(A コース) (認定資格の申請資格を取得)</p>	<p>演習</p>
テキスト	<p>「助産学講座5 助産診断・技術学Ⅰ」 我部山キヨ子 医学書院 「助産学講座5 版7 助産診断・技術学Ⅱ」 我部山キヨ子 医学書院 「助産学講座5 版8 助産診断・技術学Ⅲ」 我部山キヨ子 医学書院 「助産師基礎教育テキスト第5巻 分娩期の診断とケア」 町浦美智子編 日本看護協会出版会 「助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア」 遠藤俊子編 日本看護協会出版会</p>
参考文献	<p>「助産師のためのフェイジカルイグザミネーション」 我部山キヨ子 医学書院 「参加型マタニティクラスBOOK」 戸田律子 医学書院 「助産学講座3 母子の健康科学」 我部山キヨ子 医学書院 「助産師基礎教育テキスト2 女性の健康とケア」 吉沢豊子編 日本看護協会出版会 「助産師基礎教育テキスト4 妊娠中の診断とケア」 森真美編 日本看護協会出版 「助産師基礎教育テキスト6 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」 横尾京子編 日本看護協会出版 「最新産科学正常編、異常編」 真柄正直 文光堂 「乳房管理学」 根津八紘</p>
評価方法	<p>助産過程の展開30% 技術試験60% グループワーク・プレゼンテーションへの参加・態度10% ＜自己学習に関する指針＞</p>
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・診断の基本である診断指標の理論背景、データベースの項目理解は、助産学実習前に修得できるように日々の学習を大切にして、多くの文献を読んでください。 ・出産準備、性教育等の見学や研修会の機会があれば、積極的に参加する。 ・自主的な技術練習やグループワークが大切。

科目分類	助産実践領域		対象学年	1
授業科目	妊産期におけるME診断	カリキュラムポリシー	A	春学期
担当教員	教授 秦 幸吉 准教授 濱村 美和子			選択/必修
科目コード	I6060104	授業形態	講義	必修
				単位数
				1

目的・目標	<p>1) 産科領域における超音波診断の必要性・有用性に関して理解する。</p> <p>2) 胎児機能不全診断における胎児心拍数モニタリングの有効性と限界を理解する。</p>
授業計画	<p>1) 超音波工学の基礎知識</p> <p>2) 超音波診断装置の使い方</p> <p>3) 妊産初期・中期の超音波診断</p> <p>4) 妊産後期の超音波診断</p> <p>5) フェントムを用いた超音波の表技指導</p> <p>6) 胎児心拍数モニタリングの評価法</p> <p>7) 胎児心拍数モニタリングによる胎児機能不全の診断法</p> <p>8) 胎児心拍数モニタリングの有効性と限界</p>
テキスト	<p>標準産科婦人科学 第4版 (医学書院)</p> <p>病気がみえる vol.10 産科 改訂第3版</p> <p>胎児心拍数モニタリング講座 改訂2版 (MC メディカ)</p>
参考文献	
評価方法	出席、レポート、試験など
その他	

科目分類	助産実践領域		対象学年	1
授業科目	新生児・乳幼児の成長と発達	カリキュラムポリシー	B	春学期
担当教員	非常勤講師 加藤文英 成相昭吉 ○准教授 狩野鈴子 助教 植田 穂			選択/必修
科目コード	I6060105	授業形態	講義	必修
				単位数
				1

目的・目標	<p>新生児の病態・疾病についての知識を習得する。</p> <p>小児とその家族を支援し、家族からの質問に答えることができるように、小児の正常な発育 (成長・発達) を生理と合わせて学び、新生児期・乳幼児期・幼児期、それぞれに認められる小児疾患を感染症に重点を置いて学ぶ。</p>
授業計画	<p>【1】 【2】 【3】 【4】</p> <p>新生児・乳幼児に対する基本的理解 (狩野・植田) (演習)</p> <p>新生児の定義</p> <p>新生児の分類</p> <p>新生児の生理的適応 (呼吸、循環、体温、電解質、消化器)</p> <p>【5】 小児の成長 乳幼児の発達 (成相) (講義)</p> <p>【6】 乳幼児の市中感染症 (成相) (講義)</p> <p>2か月齢から始まる予防接種 (就学までに接種を終えるべきワクチン)</p> <p>*講義スライドは配布資料として配ります。</p> <p>講義で提供した情報について、各自で掘り下げた必要があります。</p> <p>自分にとってわかりやすい資料を最低一つは探し出し、理解を深めるように努めてください。</p> <p>【7】 【8】 RDS、MAS、高ビリルビン血症、感染症、新生児低血糖、未熟児網膜症 等 (講義)</p>
テキスト	<p>(成相)</p> <p>特に指定しません。</p> <p>大学が推薦する小児保健に関するテキストがあれば、各自で参考にしてください。</p> <p>(狩野 植田 加藤)</p> <p>「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ」【3】 新生児期・乳幼児期 医学書院</p> <p>「助産師基礎教育テキスト第6巻 産褥期のケア 新生児期・乳幼児期のケア」 日本看護協会出版会</p> <p>「新生児学入門」第5版 仁志田博司 医学書院</p> <p>「新生児学」小川雄之亮 メディカ出版</p> <p>「新生児学トピックス」和田義郎 メディカ出版</p> <p>「小児保健研究」雑誌「ネオネイタルケア」雑誌</p> <p>「小児科ナースの疾患別ケア ハンドブック」菊池 清 メディカ出版</p> <p>「新生児学テキスト」一般社団法人日本新生児成育医学会 (編集)</p> <p>その他は授業時紹介する。</p>
参考文献	
評価方法	定期試験により評価します。
その他	演習はグループワークを行います。発表ができる準備を早めに行なって下さい。

科目分類	助産実践領域	カリキュラムポリシー	対象学年
授業科目	周産期学Ⅰ(妊娠期の異常)	A	春学期
担当教員	非常勤講師 岩成 治		選択/必修
科目コード	I6060106	授業形態 講義	単位数 1
目的・目標	<p>課題(症例)の自己学習・発表・討論を通して、理論的・科学的能力と実践的能力を統合し、柔軟な思考力と問題発見・解決能力のある人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業は学生とのチャットリアル方式で行う。 ・カンファレンスは、各疾患の病態生理・症状・診断・治療・予防をテーマに行う。 ・症例を通してチャットリアル方式で行う。 <p>【1】【2】感染症と妊娠 絨毛膜羊膜炎、STD、GBS、風疹、HPV、HSV、HIV、HTLV、水痘等</p> <p>【3】【4】合併症妊娠 心疾患合併妊娠、腎疾患合併妊娠、糖尿病合併妊娠等</p> <p>【5】【6】異常妊娠 1) 重症妊娠糖尿病、子宮外妊娠、流早産、多胎妊娠、血液型不適合妊娠 2) 妊娠性高血圧症候群、HELLP症候群、妊娠糖尿病 3) 羊水過多・過少、前置胎盤、IUGR</p> <p>【7】【8】事例検討 妊娠期における症例を用いて行う</p>		
授業計画			
テキスト	<p>「助産師基礎教育テキスト第4巻 妊娠期の診断とケア」 日本看護協会出版会 「助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア」 日本看護協会出版会 「助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ(1) 妊娠期」 医学書院 「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ(2) 分娩期・産褥期」 医学書院</p> <p>「NEW 産婦人科学」 矢嶋聰他編 南江堂 「標準産科婦人科学」 望月真人他編 医学書院 「チャート産婦人科」 金岡毅著 医学評論社 「臨床エビデンス産科学」 佐藤和雄編 メジカルビュー社 「プリンプナル産科婦人科学1・2 改訂版(第2版)」 坂元正一他監修 メジカルビュー社 各種医学雑誌(周産期医学、産科婦人科、産婦人科の実践、臨床産婦人科など)</p>		
参考文献			
評価方法	<p>授業の参加状況(30%)、定期試験(70%)により総合的に評価する。</p>		
その他	<p>既習の解剖生理学、病理学などを基礎として、身体のメカニズムを深く探求する学習方法を身につける。できるだけ多くの参考文献を読み、カンファレンスが可能な準備を行う。 質問などがあれば専任教員を活用する。</p>		

科目分類	助産実践領域	カリキュラムポリシー	対象学年
授業科目	周産期学Ⅱ(分娩、産褥期の異常)	A	春学期
担当教員	非常勤講師 岩成 治		選択/必修
科目コード	I6060107	授業形態 講義	単位数 1
目的・目標	<p>課題(症例)の自己学習・発表・討論を通して、理論的・科学的能力と実践的能力を統合し、柔軟な思考力と問題発見・解決能力のある人材を育成する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 【1】陣痛異常、産道の異常 【2】進入・胎位・回旋異常、肩甲難産 【3】常位胎盤早期剥離、辺縁性胎盤剥離、癒着胎盤 【4】VBAC、子宮破裂、羊水囊栓、産科ショックとDIC、弛緩出血 【5】胎児仮死、胎盤・臍帯・羊水異常 【6】会陰裂傷、頸管裂傷、分娩誘発法、産科麻酔と無痛分娩 【7】産道切開、骨盤立牽出術、吸引誘発術、鉗子誘発術、腹式帝王切開術 【8】子宮復古不全、乳脈炎、産褥熱、血栓性疾患、産褥期精神障害 <p>※【1】～【8】についてはディスカッション形式</p>		
授業計画			
テキスト	<p>「助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア」 日本看護協会出版会 「助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ(1) 妊娠期」 医学書院 「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ(2) 分娩期・産褥期」 医学書院</p>		
参考文献	<p>「NEW 産婦人科学」 矢嶋聰他編 南江堂 「標準産科婦人科学」 丸尾猛他編 医学書院 「合併症妊娠」 村田雄二著 メディカ出版 「プリンプナル産科婦人科学2 改訂版(第2版)」 坂元正一他監修 メジカルビュー社 「産科婦人科学」 加藤宏一監修 へるす出版 「基本分娩介助学」 進神郎他著 医学書院 各種医学雑誌(周産期医学、産科婦人科、産婦人科の実践、臨床産婦人科など)</p>		
評価方法	<p>授業の参加状況(30%)、定期試験(70%)により総合的に評価する。</p>		
その他	<p>【1】～【8】課題を与えられたグループはディスカッションができるように課題のまとめがブレゼンテーションできるように準備する。</p>		

科目分類	助産実践領域		対象学年	1
授業科目	周産期救急	カリキュラムポリシー	A	春学期
担当教員	岩成 治 加藤 文英			選択/必修
科目コード	I6060108	授業形態	演習	単位数

目的・目標	<p>課題(症例)の自己学習・発表・討論を通して、理論的・科学的能力と実践的能力を統合し、柔軟な思考力と問題発見・解決能力のある人材を育成する。</p>
授業計画	<p>【1】 前置胎盤、常位胎盤早期剥離、子宮、HELLP症候群、子宮破裂 【2】 癒着胎盤、子宮内反症、頸管裂傷、臍・会陰裂傷、外陰・陰血腫、羊水塞栓症 【3】 弛緩出血、産科ショック、DIC 【4】 産科出血の処置の基礎と演習 ※【1】～【3】 学生によるプレゼンテーション、およびディスカッション形式で行う。 【5】 新生児医療、ハイリスク児医療の現状 最近の新生児心臓病 【6】 呼吸窮迫症候群 (RDS) や胎便吸引症候群 (MAS) などの呼吸障害の病態・管理 低出生体重児の養護 【7】 【8】 新生児心臓病の実践 [演習] マスク&バツクの使用法 胸骨圧迫の方法 気管挿管の手法と介助 評価方法 などについて蘇生人形を使用し技術の演習を行なう。</p>
テキスト	<p>「助産師基礎教育テキスト第7巻 ハイリスク妊産婦・新生児へのケア」 日本看護協会出版会 「助産学講座6 助産診断・技術学Ⅱ (1) 妊娠期」 医学書院 「助産学講座7 助産診断・技術学Ⅱ (2) 分娩期・産褥期」 医学書院 「助産学講座8 助産診断・技術学Ⅱ (3) 新生児期・乳幼児期」 医学書院</p>
参考文献	<p>NEW 産婦人科学 矢嶋 聡他編 南江堂 「標準産科婦人科学」 丸尾 猛他編 医学書院 「アリンブル産科婦人科学2 改訂版(第2版)」 坂元 正一他監修 メジカルビュー社 「産科婦人科学」 加藤 宏一監修 へるす出版 「日本救急蘇生ガイドラインに基づく新生児蘇生法テキスト」 田村 正徳監修 メジカルビュー社 「産科スタッフのための新生児学」 仁志田 博司編著 メディカ出版 「新生児学入門」 仁志田 博司著 医学書院 「新生児学」 小川雄之亮編著 メディカ出版 「AAP/AHA 新生児蘇生法テキスト第5版」 田村正徳監訳 医学書院 「新生児学テキスト」一般社団法人日本新生児成育医学会 (編集) その他は授業再紹介する</p>
評価方法	<p>授業の参加状況、定期試験などにより総合的に評価する。</p>
その他	<p>事前・蘇生法についての自己学習や、救命講習会などへの参加を行う。</p>

科目分類	助産実践領域		対象学年	1
授業科目	島根の母子保健	カリキュラムポリシー	D	春学期
担当教員	准教授 狩野 鈴子			選択/必修
科目コード	I6060109	授業形態	講義	単位数

目的・目標	<p>様々な統計資料から、母子保健課題について捉えることができる。地域で活動するために必要な母子保健制度や施策について理解する。島根県における助産師の母子保健活動の実践について理解する。</p>
授業計画	<p>【1】 地域における母子保健の歴史 (講義) 【2】 母子保健をめぐる諸問題と課題 (演習) 【3】 島根の母子保健情報 (招致講義) 【4】 ～【7】 母子の保健・医療・福祉に関する法律、サービス (講義・演習) 【8】 【9】 地域母子保健活動の展開 女性のライフサイクルへの支援 母子保健活動を展開する場と特長 【10】 【11】 母子保健に関する活動等への参加 (詳細は別途周知する) 【12】 【13】 島根県における地域子育て支援活動 (講義) 【14】 【15】 地域子育て支援活動の実践 (演習)</p>
テキスト	<p>「助産学講座第5版1 助産学概論」 医学書院 「助産学講座第4版9 地域母子保健・国際母子保健」 医学書院 「助産師基礎教育テキスト第1版 第1巻 助産概論」 日本看護協会 必要に応じて追加資料を配付します。</p>
参考文献	<p>「母子保健の主なる統計」 厚生省児童家庭局 「我が国の母子保健」 母子衛生研究会 「島根の母子保健」 島根県健康福祉部 「国民衛生の動向」 厚生労働統計協会 「国民の福祉と介護の動向」 厚生労働統計協会</p>
評価方法	<p>定期試験 (100%) により評価する</p>
その他	<p>招致講義については日程が変更することがある。地域で実施される研修や活動等に積極的に参加する。</p>

科目分類	助産実践領域	対象学年	1
授業科目	助産業務管理学	カリキュラムポリシー	D
担当教員	准教授 濱村 美和子	選択/必修	必修
科目コード	I6060110	授業形態	講義
		単位数	2

目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> ・助産業務の定義と管理の機能が説明できる。 ・助産師を取り巻く関連法規を理解する。 ・周産期医療施設の業務管理の基本と実態を理解する。 ・現代の周産期医療システムの現状を理解し、今後の課題を捉えることができる。 ・リスクマネジメントの基本と活動指針を理解する。 	対象学年 学期 選択/必修 単位数	1 春学期 必修 2
授業計画	<p><講義></p> <p>【1】 助産業務と管理の基本概念 助産業務の定義、助産管理の目的・対象・機能 助産業務管理の特性、管理目標の設定、ケア基準、記録、評価と調整 ・助産業務管理の機能、助産師の活動の実態について理解する。</p> <p>【2】 ～【4】 助産師の義務・責任と関連法規 課題I 助産師の法的責任と義務 ・助産師を取り巻く関連法規を理解する。 ・助産師の裁量範囲について理解する。</p> <p>【5】 ～【7】 周産期医療システム 課題II 少子高齢化社会と産科の現状と問題点、周産期センター、オープンシステム、 ・様々な周産期医療システムを理解する。</p> <p>※ミニテスト①</p> <p>【8】 【9】 周産期におけるリスクマネジメント/ 医療事故と組織における管理 <講義・事例検討> ・助産領域における医療安全対策・活動について説明できる。</p> <p>【10】 【11】 周産期におけるリスクマネジメント/ 医療事故と組織における管理 ・医療マディエーションについて概要を学ぶ。</p> <p>※ミニテスト②</p> <p>【12】 【13】 周産期におけるリスクマネジメント/ 災害時の助産管理 ・災害時の助産管理/ 対策・活動について説明できる。</p> <p>【14】 産科施設の経営戦略と管理の実態について ・病（産科病棟）産院における助産業務管理について理解する。</p> <p>【15】 産科施設の経営戦略と管理の実態について ・産後ケア事業と実態について知る。</p>	カリキュラムポリシー D 講義	
参考文献	「経営理論 新訂版」 占部 都美 白桃書房 「助産開業マニュアル」 日本助産師会		
評価方法	ミニテスト 各10点×2回(20%)、定期試験 60%、ワーク・事例検討への参加度や受講態度 20%		
その他	<自己学習に関する指針> ・夏期休暇を利用し、助産師(院)での妊娠婦管理や運営の実態を積極的に学びましょう。 ・新聞、インターネットなどのメディアなどを広く利用し、産科医療領域の情報や医療事故関連の記事に目を向けましょう。 ・実際に起きた事例を通して、助産師の業務の責任・役割を考察しましょう。		

科目分類	助産実践領域	対象学年	1
授業科目	助産学実習	カリキュラムポリシー	D
担当教員	○准教授 狩野 鈴子 准教授 濱村 美和子 准教授 藤田 小矢香 助教 植田 恵	選択/必修	必修
科目コード	I6060111	授業形態	実習
		単位数	11

目的・目標	<p><実習目的></p> <p>1) 助産師に必要な助産学の基礎的理論と技術を統合し、母子保健・福祉ニーズに対応した活動ができる。継続観察事例(妊娠中期から分娩介助に至る事例)を通して、妊娠・分娩・産褥期、および新生児・乳児期におけるプライマリ・ケアの重要性を学ぶと共に、母子とその家族を総合的・継続的に理解し助産ケアを実践する能力を養う。</p> <p><実習目標></p> <p>1) 助産診断に基づいた、助産計画を計画し、実施・評価する。</p> <p>① 妊娠、産婦、褥婦および胎児・胎児付属物、新生児および乳児の家族から情報収集を行い、それぞれの特徴を診断、健康生活診断ができる。</p> <p>② 診断に基づいたケア計画を立案し、実施できる。</p> <p>③ 実施後評価することができ、次への課題を見いだせる。</p> <p>④ 必要に応じて健康教育を実施できる。</p> <p>2) 母子に安全かつ健康に産・出生できるように分岐介助ができる。</p> <p>① 分娩進行を診断し、進行に伴う産婦と家族のケアを実施できる。</p> <p>② 10以上の産後分岐介助を安全に行うことができる。</p> <p>③ 分娩後に行う異常発生の予測ができ、予防的行動を実施できる。</p> <p>④ 出産後の母子接触や出産体験理解への支援ができる。</p> <p>3) ハイリスク新生児や女性のライフステージの健康課題について理解できる。</p> <p>① NICUにおける新生児と両親への支援が行える。</p> <p>② 思春期、中高年女性に対する健康障害の予防と日常生活上の支援について考えることができる。</p> <p>4) 助産師として対象の人格を尊重した態度を身につける</p> <p>① 妊娠、産婦、褥婦および胎児、新生児、乳児とその家族のプライバシーを保護することができる。</p> <p>② 妊娠、産婦、褥婦および胎児、新生児、乳児とその家族の意思や価値観を尊重することができる。</p> <p>③ 知り得た情報の秘密を守ることができる。</p> <p>5) 助産管理の実践を理解できる。</p> <p>① 周産期における助産業務管理の実践を学ぶことができる。</p> <p>② 病院、診療所等の組織管理について理解を深め、行政との連携について学びを深めることができる。</p> <p>6) 妊娠中期から産褥期までの継続事例から妊娠各期の変化、支援について学ぶことができる。</p> <p>① 対象の全体像を捉えた妊娠各期の助産診断と援助ができる。</p> <p>② 分娩から産後および産後1か月まで各期の経過をふまえた個別的な助産課程を展開できる。</p> <p>③ 地域で生活する母子を理解するとともに家族役割が果たせるよう支援する。</p> <p>④ 対象者との信頼関係を構築し主体性を尊重した関わりが持てる。</p>	カリキュラムポリシー D 選択/必修 実習	対象学年 学期 選択/必修 単位数	1 秋学期 必修 11
授業計画	<p><実習内容></p> <p>1) 事前学習・オリエンテーション ・実習目標・実習内容に基づき、助産学実習に必要な基礎的知識及び助産技術について自己学習しておく。</p> <p>2) 分娩介助実施:10例以上 ・取り扱う分娩は正期産・経産婦・頭位単胎とする。</p>			

	<ul style="list-style-type: none"> ・分娩第一期から分娩第三期終了より2時間まで直接介助者として担当する。 3) 出生直後の新生児の取り扱い ・出生直後から出生後2時間まで新生児を担当する。 4) 腹式帝王切開分娩 ・選択的帝王切開の産婦とその新生児を担当する。 5) 経絡観察事例：1例 ・妊娠中期から妊婦を受け持ち、産後1か月までの母子の継続したケアを実施する。 6) 経絡・新生児 ・基本的に分娩介助した産婦と新生児は継続して担当する。 7) 異常新生児：2日間 ・診察、検査、処置、健康診査、ケア、保健指導の見学を行う。可能な範囲で実施する。 8) 母親教室の実施：1回以上 ・母親教室を学生が担当し、見学後に実施する。 9) カンファレンス ・経絡観察事例の分娩前のカンファレンスまたは経験した症例に関するカンファレンスを企画・運営する。 10) 実習後報告会 ・病棟頭長の役割を理解するため追跡実習を行う。 11) その他 ・入院している切迫早産や軽症妊娠高血圧症候群、双胎妊娠などの管理 ・婦人科 12) 実習後報告会 ・施設毎に報告会資料を作成し報告書にまとめる。 ・助産学実習の学びの共有による、各自が責任を持って実習での学びを報告すると共に報告会の運営を行う。
テキスト	講義で使用した妊娠、分娩、産褥に関するテキストや参考書から、学生各自で使用してください。
参考文献	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ① 実習内容の到達度・実習記録・実習態度等により総合的に評価をする。 ② 実習の到達度は、実習評価票に沿って、レベルB(少しの助言でできる)に到達すること。
その他	実習要項は別途配布します。

科目分類	助産実践領域	対象学年	1
授業科目	地域母子保健実習	カリキュラムポリシー	D
担当教員	○准教授 狩野 鈴子 助教 植田 恵	学期	選択/必修
科目コード	I6060112	授業形態	実習
	<p><実習目的> 地域の母子保健・医療・福祉の現状と課題を理解し、母子保健活動の実践を通して、妊産婦や家族のニーズに対応できるケア・保健指導を実践できる能力を養う。</p> <p><実習目標> 1) 地域の特性と母子保健事業のアセスメントができる。 ①実習地の地域特性が理解できる。 ②実習地の保健医療福祉計画の概要が理解できる。 ③母子の健康生活状況が、適切な支援事業内容であるかアセスメントできる。 2) 保健・医療・福祉関係者との連携が理解できる。 ①医療機関・保健機関・福祉機関での活動内容を把握する。 ②各機関の専門性を活かした活動を行うための連携が理解できる。 ③保健政策の実施における助産師の役割が理解できる。 3) 母子保健活動の実践を通して倫理観を養う。 ① 秘密保持が遵守できる。 ② 対象者の権利の尊重と支援について理解できる。</p>	単位数	1
目的・目標			
	<p><実習内容> ① 事前学習・オリエンテーション ・資料等より市町村の行政組織の体系、位置づけ、地域母子保健計画、母子保健実習の体制等について学ぶ。 ② 産科・保健指導 (3～4か月児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診など) ・妊婦・乳幼児健康相談に参加し、乳幼児の発育・発達の見方、育児上の課題・指導の実践を学ぶ。 ③ 家庭訪問 ・新生児を中心に鑑察する。可能であれば未熟児についても見学する。 ・施設における助産計画立案との相談を学び、家庭におけるの援助を知る。 ④ 健康教育 ・施設からの継続看護を考える。 ・教室のねらいについて説明を受ける。 ・運営の実践について説明を受ける。 ⑤ 窓口相談 ・分娩届受理、母子健康手帳の交付、出生届の受理等を見学する。 ・対象の把握と保健指導の実践を学ぶ。 ⑥ 育児サークル ・地域母子保健における互助活動を理解し、それを支える専門性の役割と協力体制の実践について理解する。 ⑦ その他、母子保健関連会議等 ⑧ 実習後・報告会 ・地域母子保健実習の報告会を行い、学びの共有を行う。 ・地域母子保健における助産師の役割についての学びを深める。</p>		
授業計画			
	<p><実習場所> 出雲市役所</p> <p><実習期間> 6月 6～12月 実習オリエンテーション 実習(期間内における母子関係事業)</p>		

12月	実習報告会
テキスト	講義で使用した母子保健に関するテキストや参考書から、学生各自で使用する。
参考文献	
評価方法	実習記録及び実習態度により評価する。
その他	実習要項を別途配布する。

科目分類	総合助産学領域		対象学年	1
授業科目	助産学研究		学期	秋学期
担当教員	○准教授 濱村 美和子	准教授 狩野鈴子 助教 植田恵	選択/必修	必修
科目コード	I6060200	授業形態	講義・演習	単位数
授業の概要	<p>助産領域の研究について科学的アプローチの必要性と手法の基礎を理解する。また研究計画書の作成を通して助産学研究を実践する基礎的能力及び専門職として自ら学ぶ力を養う。具体的には、研究の意義と目的、デザインとその方法、倫理的配慮について理解を深める。研究過程については、テーマ設定と文献検索、研究計画書の立て方、論文の構成、クリティークなど研究を進める上での基本的事項を学ぶ。</p>			
目的・目標	<p><授業の目的> 助産学領域における研究計画書を作成することができる。 <授業の到達目標> ・助産学における研究の意義について理解することができる。 ・研究方法について理解することができる。 ・倫理的配慮に考えることができる。 ・文献検索、実習において研究に関する疑問を明らかにすることができる。</p>			
授業の内容	<p>[1] 助産学における研究とは (濱村) ・研究の意義、目的、研究の種類 [2] 量的研究とは (濱村) ・量的研究の特徴、方法、分析方法 [3] 質的研究 (濱村) ・質的研究の特徴、方法、分析方法 [4] 文献検索 ・文献検索の目的、方法、活用について [5] 文献クリティーク (濱村) ・文献のクリティークとは [6] 研究における倫理的配慮 (濱村) [7] 研究テーマについて (濱村) ・文献検索や講義、演習、実習等からテーマを検討する [8] [9] 研究計画書の書き方 (濱村) ・研究計画書の内容と記載方法 [10] [11] [12] [13] 研究計画書作成 1 (狩野・濱村・植田) ・研究テーマをしまりこみ、研究計画書を作成する。 [14] [15] 研究計画書作成 2 (狩野・濱村・植田) ・作成した研究計画書について検討し修正する。</p>			
テキスト	<p>「基本がわかる看護研究とギヤーズNOTE」 古橋洋子 学研 「改訂4版 看護研究サポートブック」 足立はるゑ著 メディカ出版 「StartUp 質的看護研究」 谷津裕子著 Gakken 「量的な看護研究のまほん」 大木秀一著 医歯薬出版株式会社 「パソコンで進めるやさしい看護研究第2版」 富田真佐子著 オーム社</p>			
参考文献	<p>研究計画書作成 (40%)、取り組み態度 (80%)、発表 (80%)</p>			
評価方法	<p>・作成した研究計画書は12月20日(金)12時までに提出すること。 ・助産学に関連する領域の問題や疑問、課題について、探求すべき研究テーマとして見逃さないよう意識し、先行文献を読みましよう。</p>			
その他				

科目分類	総合助産学領域		対象学年	1
授業科目	情報処理演習	カリキュラムポリシー	A	春学期
担当教員	教授 加納尚之			選択/必修
科目コード	I6060201	授業形態	講義	単位数
目的・目標	<p>医療・看護における各種データに対して、表計算ソフト及び統計ソフトを用いて、統計的な処理ができるようになること。具体的には、統計学的な分析方法（カイ二乗検定、t検定、相関係数の検定）を習得する。</p>			
授業計画	<p>【1】 表計算ソフトによる表の作成、表計算ソフトによるグラフの作成（ヒストグラム、帯グラフ、円グラフ）（講義及び演習）</p> <p>【2】 統計関数（合計、平均、分散、標準偏差、最大値、最小値、中央値、最頻値、カウント）（講義及び演習）</p> <p>【3】 データの切り口1（量的データと質的データ）、データの切り口2（計量値と計数値）母集団と標本、母数と統計量（講義及び演習）</p> <p>【4】 正規分布、標準正規分布、カイ二乗分布、t分布、分布表の見方（講義及び演習）</p> <p>【5】 検定とは何か（検定の手順）、適合度の検定（カイ二乗検定）、独立性の検定（カイ二乗検定）（講義及び演習）</p> <p>【6】 平均値の差の検定（t検定）（講義及び演習）</p> <p>【7】 相関係数の検定（講義及び演習）</p> <p>【8】 統計処理の総合演習（講義及び演習）</p>			
テキスト	「医療・看護のためのやさしい統計学 基礎編」 山田 覚 著 東京図書			
参考文献	「できる Excel グラフ」 インプレスジャパン 「医療統計わかりません」 五十嵐 中・佐條 麻里 著 東京図書 office 2016 で学ぶコンピュータリテラシー 小野目 如快 著 実教出版			
評価方法	レポート（40%）、および学期末試験（60%）により総合的に評価する。			
その他	<p><自己学習に関する指針> 授業時間だけではなく、空き時間に自主的に情報総合演習室で統計ソフトを活用すること。</p> <p><その他の通知事項> 講義中の私語や携帯電話の操作は厳禁です。携帯電話の電源は切っておくこと。</p>			

科目分類	総合助産学領域		対象学年	1
授業科目	母子の健康と代替療法		学期	秋学期
担当教員	○准教授 濱村 美和子	助教 植田 卓	選択/必修	選択
科目コード	I6060202	授業形態	演習	単位数
授業の概要	<p>母子の健康に注目し、より健康に過ごすための援助方法と意義を学ぶ。臨床における代替療法の目的、エビデンス、安全性について理解する。使用する際の注意点を理解した上で、ケアの方法を学習する。国内外の代替療法について調べ、妊産婦や家族の満足度を高めるための実践的な支援と方法について演習を通して理解し、修得する。</p> <p>（授業の目的）</p> <p>臨床における代替療法の目的、エビデンス、安全性について理解する。国内外の代替療法について文献検索し、妊産婦や家族の満足度を高めるための実践的な支援と方法について理解する。母子がより健康に過ごすための援助方法と意義を修得する。</p> <p>目的・目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な代替療法の存在を知ることができる 文献検討により、エビデンスの有無、安全性、効果について検討することができる 演習を通してケアの意義を考察することができる。 			
授業計画	<p>【1】 代替療法（CAM）とは（濱村） 講義・演習 代替療法について、臨床での代替療法、東洋医学</p> <p>【2】 【3】 代替療法の実践（タッチケア、心身インテグレーション）（濱村・植田） 講義・演習 ペーパーマッサージ・リラクゼーションマッサージ（リンパマッサージ）（実施）</p> <p>妊婦ヨガ（紹介） グループワーク</p> <p>【4】 【5】 【6】 実際の代替療法について文献検討（濱村） 文献検索をし、エビデンスや安全性について検討を行う</p> <p>【7】 【8】 ブレゼンテーション、まとめ（濱村） 演習</p>			
テキスト	必要に応じて資料を配付する。			
参考文献	トピックスに応じた、研究論文等			
評価方法	授業への取り組み、ブレゼンテーション			
その他	<p>・講義・演習・実習等で体験または得た情報について、文献検討を行い、演習を通して意義の理解に繋がります。</p> <p>・文献検討では、図書館、情報演習室にて文献検索や資料を収集し、グループワークを通して学習を深めます。また学びについてブレゼンテーションし、相互に共有を図ります。</p> <p>・日頃、気になるケアや興味のある事柄等についての情報を蓄積しておいてください。</p> <p>・自ら調べる、考える、自分の意見を述べる、確認するなど積極的に講義に参加してください。</p> <p>・質問がある場合は講義中または講義終了後、研究室等で受け付けます。</p>			